

各 位

三重県病害虫防除所長

令和7年度病害虫発生予報第2号

このことについて、下記のとおり発表します。

1. 向こう1か月の予報と対策

1) 作物

イネでは、葉いもちの発生時期は**やや早**、発生量は**やや多**と予想されます。発生を見かけたら速やかに防除してください。イネクロカメムシの発生量は**やや少**と予想されます。イネミズゾウムシの発生時期は**やや遅**、発生量は**少**と予想されます。

2) 果樹

カンキツでは、そうか病の発生量は**やや多**と予想されます。6月以降は新芽や幼果の病斑から二次感染するので予防散布を徹底してください。黒点病は**やや多**と予想されます。生理落果盛期から後期に予防散布を実施してください。かいよう病は温州、中晩柑ともに**やや多**と予想されます。旧葉で越冬病斑が見られるほ場では降雨等の気象条件に注意し、予防防除を実施してください。ミカンハダニの発生量は**やや少**、チャノキイロアザミウマの発生量は**平年並**と予想されます。

ナシでは、黒星病の発生量は**平年並**、ハダニ類の発生量は**少**と予想されます。

ブドウでは、べと病の発生量は**やや多**と予想されます。降雨が予想される時は、早めに予防散布を行ってください。

果樹類共通の病害虫は、果樹カメムシ類の発生量が**やや少**と予想されます。

目 次

ページ

1. 向こう1か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	7
4. 予察項目の見方	12
5. 気象のデータ	13
6. おしらせ	15

3) 茶

炭疽病、もち病、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマの発生量は**平年並**、カンザワハダニ、チャノホソガの発生量は**やや少**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、炭疽病の発生量は**やや多**と予想されます。高温・多湿条件で発生しやすいため、今後の梅雨・高温期にかけては注意が必要です。うどんこ病の発生量は**やや少**と予想されます。

ネギでは、ネギコガの発生量は**やや多**と予想されます。また、野菜共通の病害虫では、コナガの発生量が**多**と予想されます。いずれも中・老齢幼虫は殺虫効果が低くなるので、若齢のうちに防除してください。

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

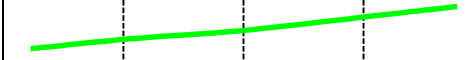
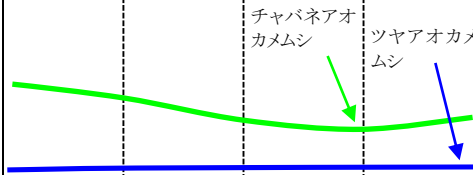
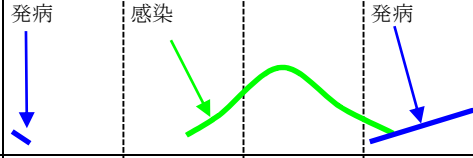
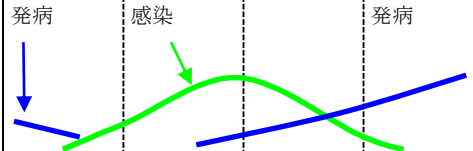
ホームページ <http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

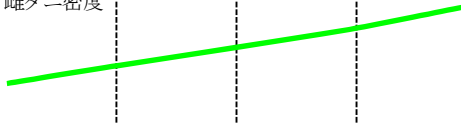
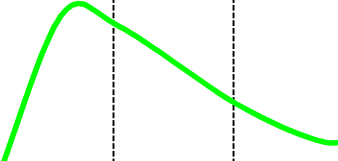
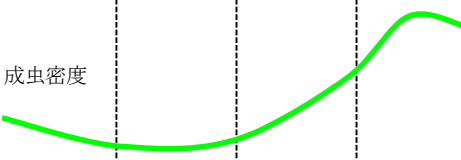
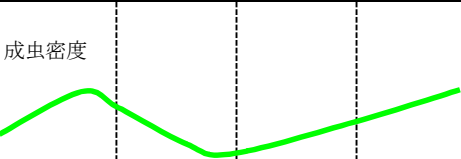
農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除 ほ場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
			5月	6月						
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	葉いもち	やや早	やや多	小	普通					1) 補植用置苗は伝染源となるので、速やかに除去し、枯死させてください。 2) 本田粒剤による予防は、初発前に行ってください。 3) いもち病発生予測支援システム(ブラスタム)において、感染好適条件の現れた7～10日後に初発が予測されます。 4) ブラスタムの最新情報は、病害虫防除所ホームページで随時更新しています。
	イネクロカメムシ	—	やや少	小	普通					1) 常発地で薬剤散布する場合は、越冬成虫の発生量がピークになる6月下旬に実施してください。
	イネミズゾウムシ	やや遅	少	小	低					1) 株当たり0.5頭以上の成虫が発生していれば、防除してください。
カンキツ	そうか病	—	やや多	小	普通					1) 梅雨明けまで幼果に感染します。 2) 6月以降は新芽や幼果の病斑から二次感染するので、予防散布が重要です。
	黒点病	—	やや多	小	普通					1) 生理落果盛期～後期に予防散布を実施してください。 2) 上記薬剤散布後、積算で200mm以上の降雨があったら次の防除を実施してください。 3) 枯枝が伝染源です。梅雨時期の枯枝発生に注意し、樹冠内やほ場内の枯枝を除去してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除ほ場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						5 月	6 月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	かいよう病	—	温州 やや多	温州 小	温州 普通	発病程度				1) 旧葉で越冬病斑が見られるほ場では、感染を助長する降雨等の気象条件に注意し、ボルドー剤による予防防除を実施してください。 2) 越冬病斑が見られないほ場でも、本病に弱い品種(カラ、セミノールなど)では、幼果への感染防止対策として予防散布を実施してください。 3) 中晩柑類では、梅雨期頃から 10 月中下旬頃まで果実への感染が起こります。
	ミカンハダニ	—	やや少	中	普通	雌ダニ密度				1) 梅雨期は薬剤散布のタイミングが取りにくい時期です。マシン油乳剤等を有効に利用する散布を計画して下さい。 2) 発生密度が高いほ場では、散布ムラのないように十分に薬剤散布してください。 3) 薬剤抵抗性発達を回避するため、同一系統薬剤使用は年 1 回までとしてください。
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	小	普通	成虫密度				1) 例年被害の多いほ場では 6 月上旬～中旬に防除し、その後は 30 日間隔を目安に次の防除を行ってください。
ナシ	黒星病	—	平年並	小	普通	発病程度				1) ほ場内をよく観察し、発病が認められる場合は速やかに防除を実施してください。 2) 発病葉は発見次第取り除き、ほ場外へ持ち出して処分してください。 3) 薬剤耐性菌を生ずる恐れがあるため同一系統薬剤の連用を避けてください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除 ほ場率	発生活消長の一例				防除の注意事項	
		平年比	平年比	程度		平年比	5 月	6 月			
							下旬	上旬	中旬		下旬
ナシ	ハダニ類	—	少	小	低					1) 防除の目安は成虫の 1 葉当り寄生頭数が 1 頭以上の時です。 2) 薬剤抵抗性発達を回避するため、同一系統薬剤使用は年 1 回としてください。	
ブドウ	べと病	—	やや多	小	普通					1) 雨が連続と急激に発生が広がります。降雨が予想される時は、早めに予防散布を行ってください。 2) 葉裏をよく観察し、病斑を認めたら直ちに防除を実施してください。 3) 被害葉、被害果穂は発見次第取り除き、ほ場外に持ち出し処分してください。	
果樹共通	カメムシ類	—	やや少	小	低					1) 降雨がなく気温の高い夜に飛来が多いので、夜間の街灯に注意したり、ほ場を見回るなどして、早期発見に努めてください。 2) 山林に近いほ場では特に注意が必要です。 3) 薬剤散布はカメムシ類の飛来を確認してから実施してください。 4) 夕刻から活発に飛翔するので朝夕の薬剤散布が効果的です。 5) 合成ピレスロイド系の薬剤を連続して散布すると、ハダニ類、カイガラムシ類の発生が多くなる傾向があるので注意してください。	
チャ	炭疽病	—	平年並	小	普通					1) 気温が 25℃前後で降雨時間が長く湿潤であると多発します。 2) 6 月上中旬頃の気象によっては感染が助長されるので注意してください。 3) 旧葉に病斑葉が多いところでは注意してください。 4) 開葉初期に防除してください。	
	もち病	—	平年並	小	低					1) 気温が 15～22℃で多発します。 2) 山間地など日陰になりやすいところでは、降雨により感染が多くなります。 3) 萌芽期が防除適期です。	

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除 ほ場率	発生消長の一例				防除の注意事項	
						5 月	6 月				
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬		
チャ	カンザワハダニ	—	やや少	小	普通	雌ダニ密度					1) 世代交代が早く、急増することがあるので、発生密度の低い時期に防除してください。 2) 葉裏に生息していますので丁寧に散布してください。 3) 天敵への影響の小さい薬剤を選択してください。 4) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避けてください。
	チャノホソガ	—	やや少	小	普通	成虫密度					1) 防除適期は孵化直後の潜葉期(幼虫による絵描き状態)です。 2) 成虫の飛来状況と新芽への産卵状況(水滴状の卵)に注意してください。 3) 成虫の飛来状況は、病害虫防除所のホームページを参考にしてください。
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	平年並	小	普通	成虫密度					1) 成虫で越冬し、新芽の伸長とともに発生が増加します。 2) 新芽を加害し、先端から褐変して落葉することもあります。 3) 二番茶の萌芽期～開葉初期に防除してください。
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	小	低	成虫密度					1) 成虫で越冬し、新芽の葉の組織内に産卵し、加害します。 2) 二番茶の萌芽前～開葉初期に防除してください。
イチゴ	うどんこ病	—	やや少	中	普通	親株 発病程度					1) ほ場をよく観察し早期発見に努め、発病葉は適切に処分してください。 2) 育苗ほ場で発生が多いと本ほでも多発するため、親株の時期から薬剤防除を徹底し、健全苗を育成してください。特にハウスで発生が多くなることがあるので注意して下さい。 3) 薬剤耐性菌を生ずる恐れがあるため、同一系統薬剤の連用は避けてください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除ほ場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						5月	6月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
イチゴ	炭疽病	—	やや多	中	普通					1) 高温・多湿条件で発生しやすいため、今後の梅雨・高温期にかけては注意が必要です。 2) 薬剤による予防防除を徹底してください。 3) 罹病株は感染源となります。見つけ次第速やかに除去し、ほ場外に持ち出して処分してください。 4) 水滴の跳ね返りによって病原菌が広がります。灌水時は、跳ね返った水滴が茎葉に当たらないよう注意してください。
ネギ	ネギコガ	—	やや多	小	普通					1) 春から秋にかけて4～5回発生します。 2) 幼虫が葉の内部に潜り、表皮を残して食害するため、潜入防止のための早期防除が重要です。
野菜共通	コナガ	—	多	大	普通					1) 中・老齢幼虫は殺虫効果が低くなるので、若齢のうちに防除してください。 2) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避けてください。

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	葉いもち	やや早	やや多	要因 1) 1か月予報(5月15日発表)によると、気温は高く、降水量は多い予想(+) 2) 巡回調査ほ場(5月第1～2週)では、置き苗での発生率0%(平年0%)と平年並に無、本田での発生ほ場率0%(平年0%)と平年並に無(±) 3) 一般ほ場では、発生量は無で平年並(±) 考察: 今後の気象条件を考慮して、予想発生時期はやや早、予想発生量はやや多と考えます。
	イネクロカメムシ	—	やや少	要因 1) 昨年の予察灯の誘殺数は松阪市8月第2半旬～10月第6半旬の水田位置3頭(平年11.7頭)と少、畑位置390頭(平年368頭)と平年並(±) 2) 本年の予察灯の誘殺数は松阪市4月第4半旬～5月第3半旬の水田位置0頭(平年0.4頭)と少、畑位置0頭(平年3.0頭)と少(—)。 考察: 予察灯の結果から、予想発生量はやや少と考えます。
	イネミズゾウムシ	やや遅	少	要因 1) 予察灯(水田位置・松阪市:4月第4半旬～5月第3半旬)では、越冬成虫の初飛来日は4月30日(平年4月25日)とやや遅、誘殺数は4頭(平年36.5頭)と少(発生時期+、発生量—) 2) 巡回調査ほ場(5月第1～2週)では、発生ほ場率16.5%(平年40.2%)と少、被害株率6.0%(平年11.0%)と少、株当たり虫数0.01頭(平年0.02頭)と少(—) 3) 一般ほ場での発生量は無～少(概して少)(—) 考察: 予察灯の結果から、幼虫の予想発生時期はやや遅、巡回調査結果及び一般ほ場の状況から、予想発生量は少と考えます。
カンキツ	そうか病	—	やや多	要因 1) 1か月予報(5月15日発表)によると、気温は高く、降水量は多い予想(+) 2) 県予察ほ(御浜町、5月7日、興津早生、無防除)では、新葉発病率91.7%(平年68.2%)と多(+) 3) 巡回調査ほ場(5月第1～2週)では、旧葉発病度0.03(平年0.01)と多、新葉発病度0.15(平年0.02)と多(+) 4) 一般ほ場では、発生量はやや少～平年並(概して平年並)(±) 考察: 現状の発生量は一般ほ場を重視して平年並と考えられ、今後の気象条件を考慮して予想発生量はやや多と考えます。

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	黒点病	—	やや多	要因 1) 1 か月予報(5 月 15 日発表)によると、気温は高く、降水量は多い予想 (＋) 2) 県予察ほ(御浜町、興津早生、無防除)では、昨年 10 月上旬の果実発病度は 71.2(平年 82.8)とやや少の傾向 (－) 3) 巡回調査ほ場では、昨年 10 月上旬の果実発病度は 2.4(平年 7.0)と少 (－) 4) 一般ほ場では、昨年 10 月の発生量は平年並(±) 考察: 今後の気象条件が黒点病の生育に好適な条件であることから、予想発生量はやや多と考えます。
	かいよう病	—	温州 やや多 中晩柑 やや多	要因 1) 1 か月予報(5 月 15 日発表)によると、気温は高く、降水量は多い予想 (＋) 2) 巡回調査ほ場(5 月第 1～2 週)では、旧葉発病度は温州みかんでは 0(平年 0.04)と少、中晩柑類では 0.60(平年 1.39)と少 (－) 3) 一般ほ場では、発生量はやや少～平年並(概して平年並) (±) 考察: 一般ほ場の結果を重視して、温州みかん、中晩柑ともに、現状の発生量は平年並、今後の気象条件を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。
	ミカンハダニ	—	やや少	要因 1) 1 か月予報(5 月 15 日発表)によると、気温は高く、降水量は多い予想 (±) 2) 県予察ほ(御浜町、5 月 7 日、興津早生)では、寄生頭数は、無防除区 0.0 頭/100 葉(平年 17.8)と少、慣行防除区 0.0 頭/100 葉(平年 2.5 頭)と平年並 (±) 3) 巡回調査ほ場(5 月第 2～3 週)では、旧葉寄生率 0.2%(平年 2.2%)と少、寄生頭数 0.00 頭/葉(平年 0.08 頭/葉)と少 (－) 4) 一般ほ場では、発生量は少～やや少 (概してやや少) (－) 考察: 現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	要因 1) 1 か月予報(5 月 15 日発表)によると、気温は高く、降水量は多い予想 (±) 2) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±) 考察: 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ナシ	黒星病	—	平年並	要因 1) 1 か月予報(5 月 15 日発表)によると、気温は高く、降水量は多い予想 (+) 2) 巡回調査ほ場(5 月第 1～2 週)では、発病葉率 0%(平年 0.3%)と少 (±) 3) 一般ほ場では、発生量は少 (—) 考察:現状の発生量はやや少と考えられ、今後の気象条件を考慮して、予想発生は平年並と考えます。
	ハダニ類	—	少	要因 1) 1 か月予報(5 月 15 日発表)によると、気温は高く、降水量は多い予想 (±) 2) 巡回調査ほ場(5 月第 1～2 週)では、寄生葉率 0%(平年 1.7%)と少(—) 3) 一般ほ場では、発生量は少 (—) 考察:現状の発生量は少と考えられ、引き続き予想発生量は少と考えられます。
ブドウ	べと病	—	やや多	要因 1) 1 か月予報(5 月 15 日発表)によると、気温は高く、降水量は多い予想 (+) 2) 巡回調査ほ場(5 月第 1～2 週)では、発病葉率は 0%(平年 0%)と平年並(±) 3) 一般ほ場では、発生量は少 (—) 考察:現状の発生量は平年並と考えられ、気象条件を考慮して予想発生量はやや多と考えます。
果樹共通	カメムシ類	—	やや少	要因 1) 予察灯(御浜町、5 月上旬)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 2 頭(平年 265 頭)と少、ツヤアオカメムシ 161 頭(平年 1,749 頭)と少 (—) 2) 予察灯(畑・松阪市:4 月第 4～5 月第 3 半旬)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 0 頭(平年 564 頭)と少、ツヤアオカメムシ 3 頭(平年 45 頭)と少 (—) 3) フェロモントラップ(5 月 1～8 日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)で 22 頭(平年 56 頭)と少、中間地(津市白山町二本木)で 27 頭(平年 86 頭)と少、平坦地(松阪市嬉野川北町)で 0 頭(平年 21 頭)と少 (—) 4) フェロモントラップ(5 月 1～8 日)では、ツヤアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)で 0 頭(平年 3 頭)と少、中間地(津市白山町二本木)で 1 頭(平年 3 頭)と少、平坦地(松阪市嬉野川北町)で 0 頭(平年 3 頭)と少 (—) 5) 巡回調査ほ場(5 月第 1～2 週、カンキツほ場)では、叩き落とし虫数 0 頭(平年 0.05 頭)と少 (—) 6) 一般ほ場では、発生量は少～やや少(概してやや少)(—) 考察:現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	炭疽病	—	平年並	要因 1) 1 か月予報(5 月 15 日発表)によると、気温は高く、降水量は多い予想 (＋) 2) 県予察ほ(亀山市、一番茶期)では、新葉発病葉数 0 枚/㎡(平年 0 枚/㎡) (±) 3) 巡回調査ほ場(5 月第 1～2 週)では、新葉発病葉数 0 葉/㎡(平年 0.03 葉/㎡)と平年並に少 (±) 考察:現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。
	もち病	—	平年並	要因 1) 1 か月予報(5 月 15 日発表)によると、気温は高く、降水量は多い予想 (＋) 2) 県予察ほ(亀山市、一番茶期)では、新葉発病葉数 0 枚/㎡(平年 0 枚/㎡) (±) 3) 巡回調査ほ場(5 月第 1～2 週)では、新葉発病枚数 0 枚(平年 0 枚)と平年並に少 (±) 考察:現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。
	カンザワハダニ	—	やや少	要因 1) 1 か月予報(5 月 15 日発表)によると、気温は高く、降水量は多い予想 (±) 2) 県予察ほ(亀山市、4 月中旬～5 月上旬)では、寄生葉率 0%(平年 17.4%)と少、寄生頭数 0 頭/葉(平年 0.9 頭/葉)と少 (－) 3) 巡回調査ほ場(5 月第 1～2 週)では、発生ほ場率 15.4%(平年 46.8%)と少、寄生葉率 0.5%(平年 5.9%)と少、寄生頭数 0.006 頭/葉(平年 0.24 頭/葉)と少 (－) 4) 一般ほ場では、発生量は少 (－) 考察:現状の発生量は少と考えられますが、今後の気象条件を考慮して予想発生量はやや少と考えます。
	チャノホソガ	—	やや少	要因 1) 1 か月予報(5 月 15 日発表)によると、気温は高く、降水量は多い予想 (±) 2) 県予察ほ(亀山市、4 月第 3 半旬～5 月第 2 半旬)では、フェロモントラップ誘殺数 636.7 頭(平年 1234.2 頭)と平年並の傾向 (±) 3) 巡回調査ほ場(5 月第 1～2 週)では、巻葉数 0 枚/㎡(平年 0.6 枚/㎡)と少 (－) 4) 一般ほ場では、発生量は少 (－) 考察:現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	平年並	要因 1) 1 か月予報(5 月 15 日発表)によると、気温は高く、降水量は多い予想 (±) 2) 県予察ほ(亀山市、4 月第 3 半旬～5 月第 2 半旬)では、黄色粘着トラップ捕殺数 17.9 頭(平年 5.8 頭)と多 (＋) 3) 巡回調査ほ場(5 月第 1～2 週)では、叩き落とし虫数 2.2 頭(平年 0.9 頭)とやや多の傾向 (＋) 4) 一般ほ場では、発生量は少 (－) 考察:現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	要因 1) 1 か月予報(5 月 15 日発表)によると、気温は高く、降水量は多い予想 (±) 2) 県予察ほ(亀山市、4 月第 3 半句～5 月第 2 半句)では、黄色粘着トラップ捕殺数 149.1 頭(平年 79.3 頭)と多 (+) 3) 巡回調査ほ場(5 月第 1～2 週)では、叩き落とし虫数 0.2 頭(平年 0.7 頭)とやや少 (－) 4) 一般ほ場では、発生量は少 (－) 考察:現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。
イチゴ	うどんこ病	—	やや少	要因 1) 1 か月予報(5 月 15 日発表)によると、気温は高く、降水量は多い予想 (±) 2) 一般ほ場では、発生量は無～少(概して少) (－) 考察:現状の発生量は少と考えられますが、今後の気象条件を考慮して予想発生量はやや少と考えます。
	炭疽病	—	やや多	要因 1) 1 か月予報(5 月 15 日発表)によると、気温は高く、降水量は多い予想 (+) 2) 一般ほ場では、発生量は平年並に少 (±) 考察:現状の発生量は平年並と考えられますが、今後の気象状況を考慮して予想発生量はやや多と考えます。
ネギ	ネギコガ	—	やや多	要因 1) 1 か月予報(5 月 15 日発表)によると、気温は高く、降水量は多い予想 (±) 2) 巡回調査ほ場(5 月第 2 週)では、被害葉率 0%(平年 0%)と平年並に無 (±) 3) 一般ほ場では、発生量は平年並に無 (±) 4) 県予察ほフェロモントラップ(松阪市、1 月第 1 半句～5 月第 3 半句)では、誘殺数 178 頭(平年 189.4 頭)と平年並 (±) 考察:現状の発生量は平年並と考えられますが、今後の気象条件を考慮して予想発生量はやや多と考えます。
野菜共通	コナガ	—	多	要因 1) 1 か月予報(5 月 15 日発表)によると、気温は高く、降水量は多い予想 (±) 2) 県予察ほフェロモントラップ(松阪市、1 月第 1 半句～5 月第 3 半句)では、誘殺数 196 頭(平年 56.0 頭)と多 (+) 3) 一般ほ場では、発生量は無～少(概して少) (－) 考察:現状の発生量は多と考えられ、引き続き予想発生量は多と考えます。

4. 予察項目の見方

1)「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比)： 平年の発生日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の 5 段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価	早	やや早		平年並				やや遅				遅		

発生量(平年比)： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の 5 段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

			平年値			
	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量(程度)： 発生程度を「小、中、大、甚」の 4 段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい」「平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除は場率(平年比)： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の 3 段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半のほ場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発消長の一例： 発生予報は向こう 1 か月の予報ですが、その前後を合わせて 40 日ほどの病害虫の発消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう 1 か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2)「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

- (±)：平年並の要因
- (+)：発生量増加または発生時期遅延の要因
- (-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 気象のデータ

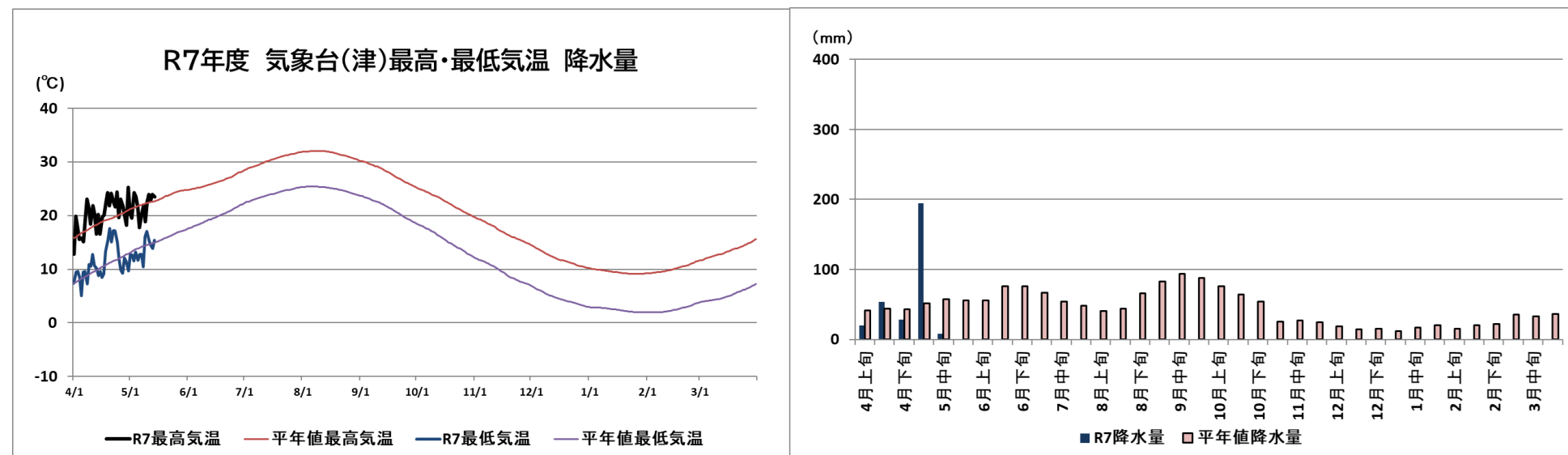
東海地方 1 か月予報(令和 7 年 5 月 15 日 名古屋地方気象台発表)

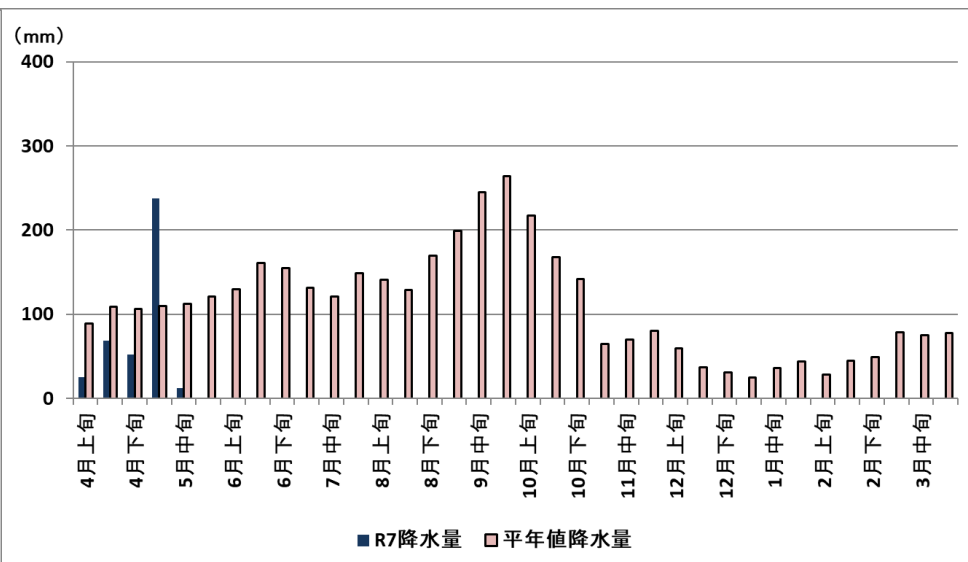
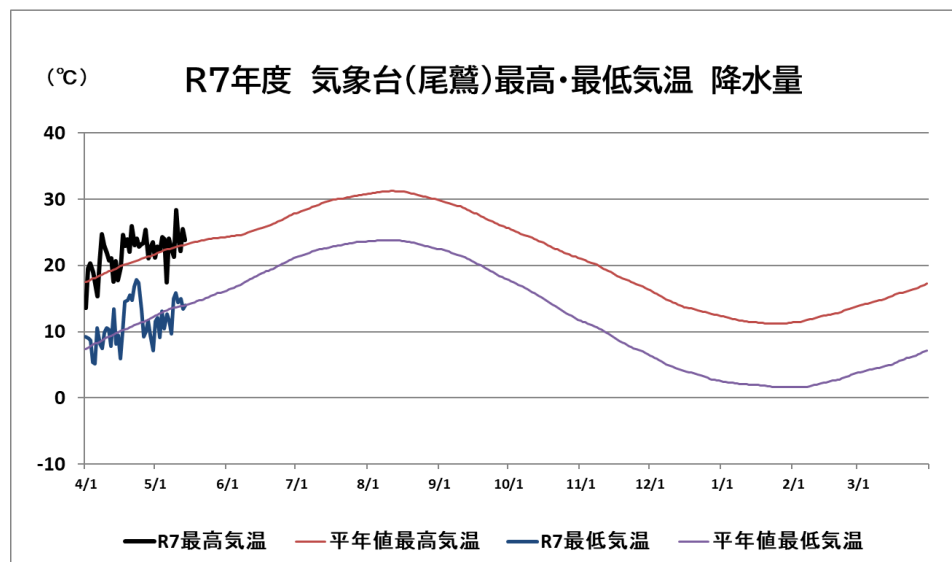
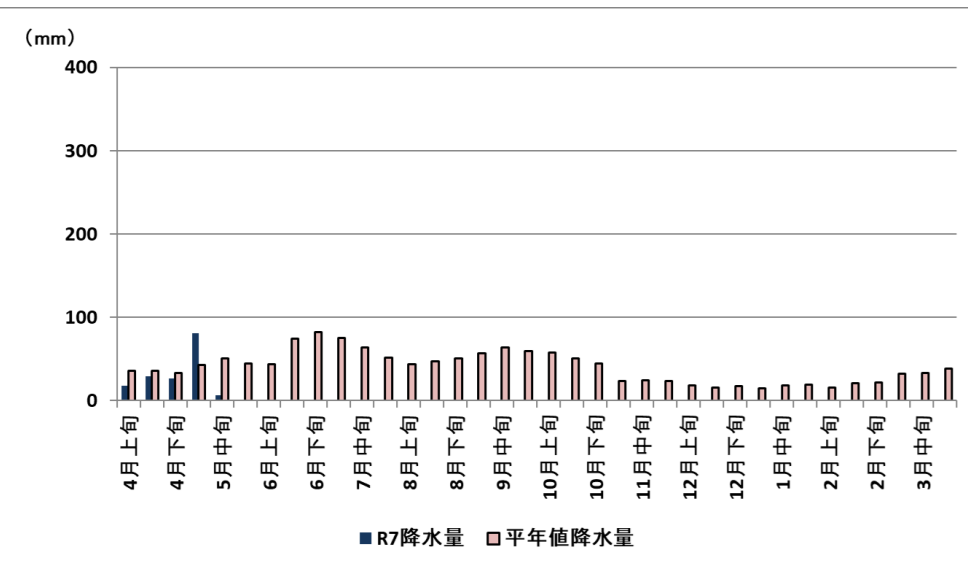
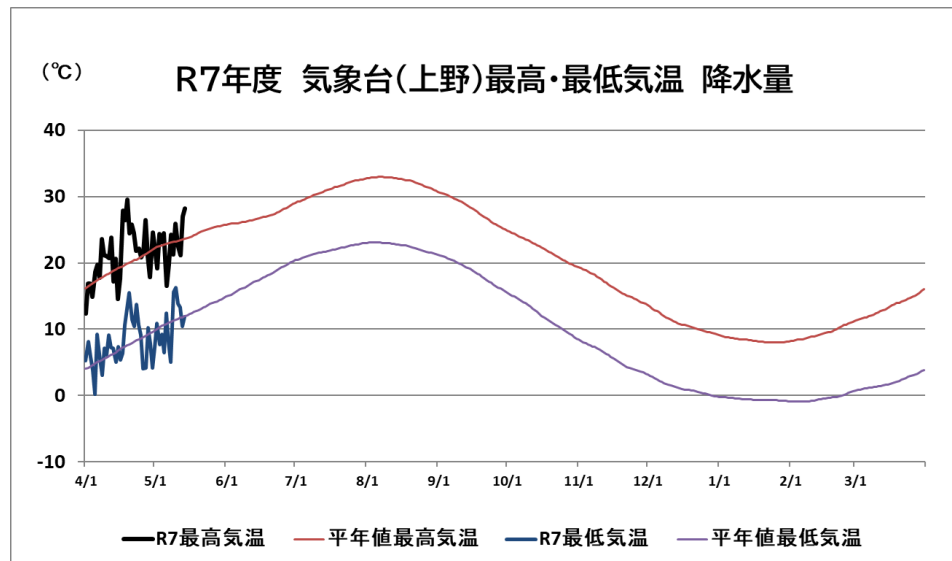
向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高いでしょう。特に、期間のはじめはかなり高くなる見込みです。

前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ないでしょう。

1 週目 5 月 17 日 ～23 日	天気は数日の周期で変わりますが、前線や湿った空気の影 響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょ う。
2 週目 5 月 24 日～ 30 日	天気は数日の周期で変わりますが、前線や湿った空気の影 響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょ う。
3～4 週目 5 月 31 日～ 6 月 13 日	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

気象の日別推移(気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (5 月 14 日まで)





6. おしらせ（前回と異なる項目には **NEW** の印があります）

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回	4月24日(木)(済み)	第2回	5月22日(木)(今回)
第3回	6月19日(木)	第4回	7月23日(水)
第5回	8月21日(木)	第6回	10月17日(金)
第7回	3月19日(木)		

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただけると幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。

下記のアドレスからお入りください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001134365.pdf>

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたことを「掲載通知」として電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39475007379.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

三重県農薬情報システム

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/mie>

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

<https://pesticide.maff.go.jp/>

7) IPM(総合的病害虫・雑草管理)実践指標について

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。農産物安全・流通課ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産物安全・流通課ホームページ内

<https://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/80301022763.htm>